

教令だより

教会一致のための 合同祈とう会

ザビエル教会で

去る一月二三日、教会一致祈禱週間の際、ザビエル教会で、教会一致のための合同祈禱会が行われた。新教を代表する数名の牧師と信者、カトリック教会の司祭、修道者、信者、およそ一五〇名が一堂に会して、一致のための祈りを捧げた。

午後三時から四時まで約一時間にわたって、聖歌、詩篇交唱、聖書朗読、すずめのことば、信仰告白、祈禱など、プログラムに沿って会はすめられた。

一致のための祈禱会という、鹿児島でも、今までに余りなかった会なので、その計画にはかなりの注意が払われた。例えば、歌われた聖歌四つの中、三つは新聖歌集により、キリスト教会「さんびか」の聖歌を選んだ。聖書の朗読ヶ所も、神の王位をとどめに賛美する詩篇九八。各々の信者にたいして、あらわさ

者的一致こそ、必要で、より力強いものとなるであろう。「あなたがたは、たがいに愛しあえ、わたしがあなたを愛したように、あなたがたも、たがいに愛しあえ、それがよいて、人はみな、あなたがたがわたしの弟子であることを認めるだろう」。(ヨハネ一三の三四―三五)との、イエズスさまのことばが、よりよく実現されよう。

「祈禱会について行われた茶話会はいへん有益だったと思う。そこでみんなが自己紹介したり、紹介されたりして、互によく知り合うことができた。ニュースをもち寄って、布教事情のいくらかでも知ることができた。和気あいあいのその雰囲気の中で、お互いがよく理解し、一致するために、知ることがいかに大切かを感じた。キリスト者の不一致が、どれほど未信者のつまづきとなり、布教の妨げになっていることだろう。わたしたちの一致こそ、イエズスのおのぞみである。またいろいろの社会機構が世界的になり、その団結の広さと力を増大させているとき、キリスト

者的一致こそ、必要で、より力強いものとなるであろう。「あなたがたは、たがいに愛しあえ、わたしがあなたを愛したように、あなたがたも、たがいに愛しあえ、それがよいて、人はみな、あなたがたがわたしの弟子であることを認めるだろう」。(ヨハネ一三の三四―三五)との、イエズスさまのことばが、よりよく実現されよう。

本教区主催、京都心のともしび運動本部協賛で辻久子のバイオリン・リサイタルが五月二十八日午後二時と夜六時半から県文化センターで行なわれる(四面参照)

司祭消息

ミタマヤ神父

レデンプトール修道会管区長
三月十二日ドイツから休暇を終えて谷山修道院に帰院。

メニヒ神父

レデンプトール会、亀津(徳之島)教会
三月九日休暇のためドイツに帰国。

フリチエル神父

レデンプトール会、三月十六日出水教会から岡前教会へ転任。

ハイシク神父

レデンプトール会、岡前教会から亀津教会へ転任。

ザンパーロ神父

ザベリオ会、鹿児島教会主任。静養のためさる一月、イタリアへ帰国

マルチネリ神父

ザベリオ会、大分教区宮崎県小林教会から鹿児島教会に転任。

フォルナバイヨ神父

ザベリオ会、垂水教会主任。休暇のため四月下旬イタリアへ帰国の予定。留守中はバルビーニ神父がつとめる。

本年はじめの 高校生大会

さる一月四日―六日、昨年につづいて年の初めのカトリック高校生大会が、谷山のラ・サール学園で行われた。参加者は約九十名。とおく北九州、長崎、大島からも参加した。

三つのグループにわかれて、愛の本質、愛の活動についての研究討議。里脇司教、鹿児島純心の八田校長、丹羽神父の講演も行われた。

教師の会で イエル神父の講演

鹿児島カトリック教師の会では二月十六日、鹿児島少かつたため、聴衆に多大の感銘を与えた。

鴨池教会 新築工事はじまる

鹿児島市内、鴨池教会の新築工事は、さる三月からはじまった。設計は菅氏、施工は高山組で、総坪数三百坪、鉄筋コンクリート

今年の小神学校 入学一名

今年の教区小神学生の新しい入学者は、例年より少く、ザビエル教会から一名である。小神学校から福岡サンズルビス大神学校に進学二名。これで現在小神学生は八名、大神学生は六名、う

ブラジルの 二修女名古屋へ

ブラジルのフランシスコ伝道女会の相川、米山二修女は、前に大島、最近司教館で手伝っていたが、四月のはじめ名古屋にうつり、同地で布教を手伝うことになった。

鹿屋島純心の 校舎改築

鹿児島純心では、二月十一日、校舎の改築が成って眼下に広がる町の人々に偉容とつた美しい眺めを値することになった。

善き牧者修道院消息

谷山の善き牧者修道院では、谷山に修院を開設以来愛の聖母園の園児の係りをしていたセシリア童貞は、大阪教区豊中に新らたにおこされる事業のため、四月上旬谷山をさって豊中に転任した。在目すに三十年になる。

○ヴァランチヌス童貞

一九三七年以来三十年の長きにわたって、わが国の養護施設で献身した同修院のヴァランチヌス童貞は、病気のためさる一月カナダに帰国した。

○セシリア童貞大阪へ

谷山の善き牧者修道院では、谷山に修院を開設以来愛の聖母園の園児の係りをしていたセシリア童貞は、大阪教区豊中に新らたにおこされる事業のため、四月上旬谷山をさって豊中に転任した。在目すに三十年になる。

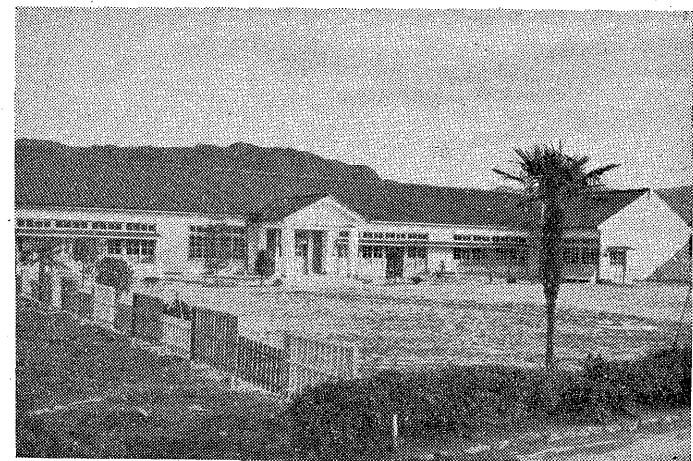


鹿屋教会で 三十名の受洗者

鹿屋教会では、昨年、王たるキリストの大祝日とクリスマスの大祝日の両祝日に、約三十名の受洗者があった。この中に、家族二、高校生九名、青年四名が含まれる。地区別では、鹿屋十五、大根占七、串良六、高山一、内之浦一名で、鹿屋市周辺のあちこちの町々に及んで、中にも内之浦町は鹿屋市からのもっとも遠く受洗はじめてである。(鹿屋教会の受洗)

福山病院訪問

ザビエル教会のヴァインセンソ会は、「機動力」に今年になって、さつき、富む頼もしい会員で、東奔西走の大活躍をしている。今年十一月十五日には、例年のと



おり、福山病院を訪問し、約五千円分のお菓子を贈って、患者に喜ばれた。福山病院では、病棟の新築が進んで、威風堂々の観を呈しつつあるが、ヴァインセン

二月二十六日、鹿屋教会で、信者求道者からなる高校生集りが、三月の卒業生送別をかねておこなわれた。夫々、鹿屋市内大根占などの高校の生徒で、このうち十一名が過去一年間に

復活祭の意義

ヨハネ二十三世教皇の
メッセージから

救い主から絶えず生命と不滅性を受けているキリストの神秘体にはかならず教會の永續性を、この復活祭はなんとみごとに証していることでしょう。二千年の昔にさかのぼるイエズスのご復活という歴史的事實を教會は力強く確信しております。そしてこの歴史的事實こそ、キリスト教社会をささえている堅固な柱であり、その信仰を養う頼もしい糧であり、その希望の原動力、その愛の源なのであります。

教會を創立された神が生きておいでになるのと同じように、教會もまた生きております。イエズスが、死を免れない人間性の掟に従

わたのち、ご自分の墓の前に敵が押し立てた石の障害を乗り越えて、勝利を獲得なさったように、教會も同じ生命の力をもって前進しています。イエズスと同じように、教會もまた、幾世紀ものあいだ、さまざまな敵を持ち、かれらは教會をいわば墓の中に閉じ込めようとつとめ、敵は教會の苦しみと死を喜こびとしていました。しかし教會は自己のうちに、その創立者の無敵の力を持ち、その都度創立者とともによみがえって、すべての人にゆるしを与え、謙遜な人びと、貧しい人びと、悩む人びと、善意の人びとに平安を保証したのであります。

なぜ布教するか

教会憲章理解のために
(五)

「教会憲章」では、今日まで余り明確にされていなかった未信者の救いについて、次のように述べられている。「救い主はすべての人が救われるのを望みたまうのであるから、影と像のうちに知られざる神を捜し求めている人々からも、神は決して遠くはないのである。事実、本人の側に落度がないままに、キリストの福音ならびにその教会を知らずにいて、誠実な心をもって神を捜し求める人も、永遠の救いに達することができる。また本人の側に落度がないままに、まだ神をはつきりと認めるに至らないが、神の恩恵に支えられて正しい生活を身につけようと努力している人々にも神はその摂理に基づき、救いに必要な助けを拒まれることはないのである。」⁽¹⁰⁾これを讀んだプロテスタントの一牧師は、ショックだったといった。自然的理性からの推理を拒み、聖書だけを重ずる彼らの立場としては、当然のことであろう。カトリック教会においても考え方の変化を認めないわけにはいかない。

非キリスト教徒の救いについての考え方の変遷

これこそ、今、目の前に迫っている復活祭の意義にほかなりません。この意義をあなたがたに示すのはなによりも、あなたがたの教会にたいする忠誠をゆるぎないものにしたいからであります。また、あなたがたが愛に深く根ざし、愛にもとづきながら、母なる教会の生命に、喜びと惜しみない心をもつて参与できるようにしたいからでもあります。そのためには、教会の勝利を確信し、教会を守るためにいつでも戦えるように、また、教会の発展のためにいつでも力を尽くすことが出来るように備え、一つに結びついて教会のために証言できなければなりません。この点について、パウロのことはに耳を傾けましょう。

「平和のむすびによって精神の一致を守るように」とめよ。からだは一つ、霊は一つ、あなたがたが召出によって二つの希望に召されたのと同様に、主は一つ

信仰は一つ、洗礼は一つ、神は一つで、すべてのものの父であり、すべてのものの上にあり、すべてのものの上に働き、すべてのもののうちにおられる」(エフエソ4・3-6)。

目覚めて祈るうちに、やがてまためぐりくるこの喜ばしい復活祭の奥義は、私に簡単に述べた意義を持つだけにはとどまりません。それはまた一人一人のキリスト教徒の霊的生活の奥深く浸透して、その人を、よみがえられたキリストにかかるとだらせるという意味をもそなえているのです。復活祭は、全の人にとって死と生の奥義であります。だからこそ私は、父として教会のあなたがたに次のような教会のはっきりした掟を思い起こさせるのです。その掟によれば復活祭のあいだに信者はいずれも、その心にも信仰を深めながら、罪なき小羊の生きたからだを糧とするために、聖体を拝領するよう求められているの

です。それゆえ、復活祭の奥義は、信者各人にとってのも死とよみがえりの奥義なのであります。

復活祭の儀式は、私たちにために、「あなどられて人にすてられ、悲しみの人にしてなやみを知る」(イザヤ 53・3)ものになろうと望まれた主の御苦しみを強調し、私たちが罪にたいして死に、「古いパン種」：悪とよこしまのパン種を取り除き」(一コリント 5・7)、新しい被造物となるように促すものであります。生まれながらに神の子にましますキリストが、「死ぬまで、十字架上に死ぬまで自分を卑しく従われた」のですから、神の子となる恵みを受けた私たちは、キリストのご事蹟を手本とし、それに倣わなければなりません。キリスト信者であるという事実は、キリストとともに、この霊的な死の奥義に与らせることにほかならないのです。そのことを説きすすめたパウロのことばに耳を傾けましょう。

「イヘズ・キリストにおいて洗礼を受けたわれわれがみな、かれの死において洗礼を受けたのであることを、あなたたちは知らないのか。われわれはその死における洗礼によって、イヘズとともに葬られたのである。それは、御父の光栄によってキリストが死者の中からよみがえられたように、われわれもまた新しい生命に歩むためである……死すべきあなたたちの体もはや罪が支配することのないように」(ローマ 6・3・4・12)。

したがって、私たちの復活祭は私たちがみな罪、激情、憎悪、敵意など、そのほかあらゆる霊的肉体的な不均衡、苦悩、苦痛のみなもととなるものにおいて死ぬことであります。実をいえば、この死はより高い目標に向かう第一歩にほかなりません。なぜなら復活祭は、一方では生命の奥義なのでから。

このはかり知れない生命によって、はじめて日々の生活は意義あるものとなり平和に満ちたものとなることを私は使徒たちと同じ確信をこめて認めなければなりませんし、あなたがたもそれを確信しなければならぬのです。信仰をもたない人は、キリスト教が束縛のかたまりであるなどと輕はずみに申しますが、キリスト教は決してそのようなものではなく、むしろ平和であり、喜びであり、愛であり、早春の自然のひそかな息吹のように、いつも新たにされる生命なのであるのです。この喜びは、よみがえられたキリストから湧き出ております。よみがえられたキリストは、人間を罪の束縛から解き放ち、キリストとともに、永遠の至福を待ち望む新しい被造物となるように促しておられます。

もうまもなく、心にしみいるように、ミサの書簡のことが、私たちの耳もとにひびいてくることでしよう。

「あなたがたが、キリストとともに復活したのなら上のことを求めよ。キリストはそこで神の右に坐しておられる。あなたがたは地上のことではなく、上のことを慕え。あなたがたは死んだものであつて、その生命は、キリストとともに神のうちに隠されているのである、あなたがたの生命なるキリストが現われたもうとき、あなたがたも栄光のうちにキリストとともに現われるであらう」(コロサ13・1〜4)。

復活祭の季節のあいだずつと、教会は「主はまことによみがえられた」という喜ばしい知らせをうたい続けます。キリストの兄弟たち一人一人についても、同じように「まことによみがえった」といわなければなりません。罪の中にいた人は、まことによみがえらせるのです。疑い、不信恐れ、なまぬるい信仰など

のみにと立ちもどせたましいイエズスよ、われらの願い望むたまもの一つ一つを、人類家族のすべての成員の上に注ぎたまえ。やがてまた、ともうとするおんみの光によつて、人びとの精神よりあやまちの闇を追い払い、人びとの心の底をきよめ、各人の歩むべき道を照らし、全世界に愛と正義と平和への熱意を生みだされますように。

(沢田・ネメシエギ訳編
地上に平和を、より)

もろもろの民の救い主よ
過越しけがれなきいけに
えとして、罪人たちを御父
教会の本質的構成要素と考
えられるようになったので
ある。洗礼をうけない未信
者にも、救いの可能性のあ
ることを明言すると同時に
教会は、かつてない程宣教
的なのである。そのモチー
フは、あくまでも三位一体
の生命の発露である。従つ
て、優者が弱者を説得す
る態度は、キリストの布教
方法から程遠いものである

カトリックの
ラジオ番組を
ご存知ですか？

南日本放送を通して、カ
ラかがえる。そこには、い

十七世紀初め中國に來た
宣教師マテオ・リッチは、
支那の三大宗教（道教、仏
教、儒教）を、人類を地獄
にひきおとす七頭蛇の三つ
の頭と考えた。イエズス會
とは、これに戦いをいどむ
軍団だといふのである。聖
フランシスコ・ザビエルも
キリスト教を全く知らない
で死んだ、日本人の祖先の
救いについて、極めて悲觀
的態度を示した。

ところが、最近一部の神
學者によつて、「匿名のキ
リスト者」といふ言葉が使
われるようになった。キリ
ストの救世の御業は、實際
に宣教が行われていないと
ころにも、ある意味ではゆ
きわたっている。そこには
自分をキリスト教徒と自覺
してゐなくても、實質的に

はキリスト信者である人が
いるといふのである。彼ら
は神の恵みをうけて、義化
されているにちがいない。

更に、「教會の外に救ひ
なし」といふ命題は、なが
い間議論されて來たが、こ
れも教會外にとどまつてい
る人は救われないといふこ
とを意味しない。望みにお
いて教會にはいり、救われ
る最少限の信仰は、他宗教
によつても得られると考え
られる。それは直接に神信
仰でなくてもなくても、正
義とか、兄弟愛、平和など
の絶対的価値に献身するこ
とでもよいといふ説もある
ここで問題になつてくる
のは、それならば、布教の
必要はないのではないかと
いうことである。少くとも
昔程熱心に、未信者の救靈

のために働く必要はないのではないか。しかし、これは、公会議の神父達の考えではなかった。真の信仰がなければ、救いがどんなにむずかしいかを説き、宣教の必要を強調している。(10)

宣教のモチーフ

教会の宣教の動機を考えるのに、パウロ六世の次の演説は示唆にとんだものである。一九六五年五月十四日、信仰弘布会の指導者に大要次のように述べておられる。

教会の布教活動は、御父が御子を永遠に生み給うことの中に、類比的なイメーヂを見出すことができる。

「父が私をつかわされた如く、私もあなたたちをつかわす」。(ヨハネ 20・21) 布教は神の生命の流れで、そ

れはまずキリストにおいて人類に啓示され、キリストと共に人類全体を唯一の愛の中にあがない集めて三位一体のふところに帰らせるものである。教会が世界に向って働きかけ、靈的に広がるよう常に努力するのもそのためである。従って聖パウロは「時なるも時ならざるも」と絶えざる努力を説いたのであり、キリストのはかり知れない富を、あまねく人に示し、無限なるものにうえている人々の心に、救霊への探求心をうえつけねばならない。そのため教会が、まず第一に考えていることは、すべての人が、キリストは唯一の主、すべての人の救い主であることを宣言するように、できるだけ早く、世界をキリ

ストの名恵みでみたすことである。

教会全体が宣教師

教会は神の民であり、司祭も信徒も区別なく、予言の任務をもつ。従来キリスト教国とみなされていた西洋諸国においても、まんえんする異教主義のために、「キリスト教的」と簡単にいえなくなっていること、これらのことは、「布教」について根本的に考え直すよう促している。布教とは遠い国に行つて異教徒に教えを説くことではないのである。

布教についての、教父達のもつとはつきりした考えは、「教会の布教活動に関する教会」の中に、うかがわれる。次にそのいくつか点を指摘しよう。

教会は地上における巡礼の間、本質的に宣教的である。それは三位一体の中にその起源を持つ。御父はその愛とあわれみによつて、人類を創造し、神の生命と光榮にあずかるように召された。神のこの普遍的計画は、御子をつかわすことによつてより具体的になる。キリストによつて始められた事業は、地の果まで実現されねばならない。この事業のより完全な実現のために聖霊がつかかわされる。教会は、この三位一体の事業を継続発展させるために、救いの秘跡として創立された。教会は、キリストと同じく、清負、従順、奉仕、ぎせいの道を歩まねばならぬ。

このように、「宣教」は

送が再開された。題と時間
は次のとおり。

「心のももしび」
月曜から土曜まで、午前
十時五十五分——十一時

この番組はわが国のすべ
ての教区で放送され、京都
の善き牧者運動本部により
推進されている。ハヤット
神父様をはじめ、カトリッ
クの有名作家、有名人ゲス
トやその他一般から応募さ
れた。良心的なすぐれた作
品が、河内桃子さんの流麗
な朗読で放送される。イエ
ズさまに倣って、印象的
でひきかな、日常生活の具
体例から、すぐれて高尚な
教えを導き出すことが多い
イエズスさまを、現代の社
会にご案内しようとする。

みなみなならぬ努力がよく

大衆にとけこむ。いわば神
さまのみ手になる、自然の
美しさが感ぜられる。これ
が、一日約六百万以上と推
定される人々から、この番
組が歓迎されるわけである
この番組がこのように迅
速に再放送されたのは、た
とえに次の方々の大きな犠
牲とご後援のおかげによる
ものだった。

レデムプトル会
ラ・サール会
ザベリオ会
鹿児島純心学園
川内純心学園
大口明光学園
鹿児島教区
もう一つのカトリック番
組は次のとおり。

「太陽のほほえみ」
(四面へつづく)

